

競技に関する注意事項

1 感染症対策について

1. 発熱、咳等の症状がある場合は、競技への出場を自粛するとともに、観戦もしない。
2. 感染症の罹患中および快復後十分な時間を経過していない場合においても、競技会への出場を自粛するとともに、観戦もしない。
3. 声を出しての応援については特に制限はもうけない。各自で感染防止に心がけること。

2 競技会全般に関して

1. 本大会は 2023 年度日本陸上競技連盟競技規則および、本大会申し合わせ事項により実施する。また、競技者は日本陸連「競技会における広告及び展示物に関する規定」を適用し、違反する場合は注意を行う。
本大会のスタート動作における競技規則は、国内ルールを適用する。
2. 各団体代表者(学校については引率教員)は、競技の招集開始時刻までに受付を済ませておく(受付がない場合、競技者は競技に出場できない)。受付時に「健康チェックシート提出用紙」を提出すること。
3. 招集所、招集時間について
 - (1) 招集所は、1階正面玄関ウッドデッキに設ける。
 - (2) 招集時間は、タイムテーブルに記載されている時間とする。出場種目が重複し、競技中に招集時間が設定されている場合は、最初の招集の際に申し出る。
4. ウォーミングアップについて
 - (1) 本競技場
本競技場内でのウォーミングアップは競技に支障のない範囲で行って良い。
朝のウォーミングアップについては、準備が早く完了した場合に、第1種目開始 15 分前まで行って良い。
 - (2) ウォーミングアップ場(野球場)
 - ① 使用終了時刻は最終種目招集開始時刻までとする。
 - ② 跳躍練習、投擲練習、スパイクを使用しての練習は実施できない。
 - ③ 他人の怪我につながる可能性のある行為はしない。
 - ④ 競技役員から指示があった場合、その指示に従うこと。
5. 施設設備の使用について
 - (1) 1階正面玄関ウッドデッキを控え場所として使用しない。(緊急時には、避難場所として使用する。)
 - (2) 今大会では競技終了後の清掃当番をおかない。各自で出したごみは必ず持ち帰ること。近隣のゴミ箱等に捨てることはしない。
6. 写真及びビデオ撮影について
 - (1) 撮影をする際には本部にて200円を持参し、撮影許可証を受け取ること。ただし、団体関係者については団体関係者と識別できる服装であれば撮影を認める。
 - (2) 本人及び保護者の了承がない撮影を禁止する。
 - (3) 下記のエリアを撮影禁止とする。
 - ・各種目のスタート後方
 - ・走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳の助走後方と着地前方
 - ・走高跳のマットに向かった正面(クリアランス動作中)
 - (4) スターティングブロックの足合わせを行っている間や試技を待っている間、身体を動かしている間など競技の準備を行っているときは撮影禁止とする。
 - (5) 他者に著しく迷惑をかける行為と主催者が判断する場合は、速やかに警察及び関係機関に連絡をする。
7. 表彰について
本大会は表彰式を行わない。1位の選手に表彰状とメダルを2位～6位までの選手に表彰状を授与する。
選手または関係者が大会本部に受け取りに来ること。
8. Live 配信について
今大会は、YouTube によるライブ配信を行う。そのため WA 及び日本陸連の定める「競技会における広告および展示物に関する規程」に従うものとする。

9. その他

6月4日(日)は、全日本中学校通信陸上競技大会西三河予選会 円盤投を同時に開催する。

3 競技に関して

1. アスリートビブス (ナンバーカード) について

- (1) ユニフォームの胸、背に確実につける。ただし跳躍競技は、胸または背につけるだけでもよい。
- (2) トラック競技は、招集時にレーンナンバーによる「腰ナンバーカード」を貸与する。ランニングパンツの右横やや後方に、明確に数字が読めるようにつける。800mについては招集所にて別途指示する。
- (3) 長距離種目においては、両腰につけることもある。
- (4) 腰ナンバーカードは、フィニッシュ後直ちに係員に返却する。
- (5) リレーのオーダー用紙は、招集完了 60 分前までに、招集所へ提出する。

2. 競技の番組編成について

- (1) トラック競技の走路順・フィールド競技順は、プログラム記載順とする。
- (2) 競技者の変更は、800mを除きいっさい認めない。
- (3) 800m を 9 名以上で実施する場合、外側のレーンから順に 2 名ずつ入れる。欠場者が出た場合、内側から若い腰ナンバー順につめる。招集が完了し、出場者が確定した後、スタートレーンを確定する。

3. 競技用靴について

- (1) 競技に使用できる競技用靴の靴底の厚さは、次の表に示すとおりとする。規格に合うもので競技を行うこと。ただし、フィールド種目については本規定を適用せず実施する。記録は国内の公認記録として認められるが、WA への申請は行わず、国際競技会への参加資格として採用できない。

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
トラック種目 (800m 未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m 以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
フィールド種目 (三段跳を除く)	20mm	全投擲種目と高さを競う跳躍種目及び三段跳を除く、長さを競う跳躍種目に適用。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。

- (2) 審判長の判断により、競技終了後に靴底の厚さを計測することがある。計測の結果、違反が認められた場合はその競技者を失格とする。
- (3) 全天候走路なので、トラック・フィールド共スパイクのピンの長さは 9mm 以下とする。ただし、走高跳・やり投は 12mm 以下とする。いずれの場合も本数は 11 本以内とする。

4. 競技器具について

- (1) 原則として競技場備え付けのものを使用する。
- (2) 棒高跳の「ポール」は、各自が持参した物を使用する。
- (3) 投てき器具は検定を受けて使用することができる。また、投てき器具については主催者が一括で借り上げ、参加競技者間で共有できるものとする。
- (4) 競技器具の検査は次のとおりとする。
 - 検定時間 招集開始 1 時間前から招集開始時刻まで
 - 検定場所 投てき器具・・・1F 競技場入場口 (フィニッシュライン側)

5. 400m までのトラック競技では、フィニッシュした後も他の競技者の安全確保のために、自分に割り当てられたレーン(曲走路)で減速し止まる。

6. 中高投擲種目、高校投擲種目については記録会として実施し、試技回数は 3 回とする。

7. 三段跳は踏み切り板を女子 9m、男子 11mとする。
8. 男子 10000mについては各団体で周回記録の補助員をだすこと。その詳細に関しては団体受付時に確認をする。
9. 競技進行の都合上、制限時間を設ける。各競技スタート後、以下に記載している時間の経過時点で、残り 1 周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

	男	女
5000m	18分	23分
10000m	42分	
3000mSC	12分	14分
5000mW	37分	

4 会場図について

